

1 学年の実践記録

(1) 主題に迫るための具体的な手立て

[手立て1]

- ・ 勝山北団地公園では、落ち葉を踏みしめる感触を楽しんだり、ドングリや落ち葉等を見付けたりする活動を設定する。秋の自然がいっぱいの勝田公園では、体育科の学習とも関連させ友達やお相手さんと一緒に木にぶら下がったり、坂すべりをしたり、木のブランコをしたりする等、秋の勝田公園の場や特徴を生かして遊ぶ活動を設定する。これらのことで、秋の自然の中で友達やお相手さんとかかわりながら遊ぶことのよさや楽しさ、季節の変化に気付くことができるようにする。
- ・ 「見付けた秋のもので遊びたい」という思いを大切に、試し遊びをする活動を位置付ける。試し遊びの活動は、図画工作科との関連を図り、生活科以外の学習の時間でも「見付けた秋のもので遊ぶ」という児童の意識がつながっていくように単元配列を工夫する。昨年の第1学年がつくったゲームで遊んだり、参考作品を見たり、気付きや思いを伝え合ったりし、次第に、「見付けた秋のもので楽しいゲームをつくって遊びたい」という思いをもてるようにする。このように、児童の興味・関心、思いや願いに寄り添いながら次時の活動へとつないでいく。
- ・ 見付けた秋のものや身近なものを使ってゲームをつくって遊ぶ活動を通して、人とかかわりを深めていけるようにしていく。そのために、まず、友達と楽しく遊べるルールの工夫をする活動を位置付ける。その中で、自分の思いを伝え合ったり相談し合ったりしながらつくって遊んでいる児童を賞賛することで、みんなでアイデアを出し合って工夫して遊ぶと楽しいことに気付くことができるようにする。その後、「遊んで楽しかったから、今度はお相手さんと一緒に遊びたい」という思いから、図画工作科で身に付けた力も生かしながらお相手さんと楽しく遊べるルールの工夫をしたり、一緒に遊びお相手さんからの感想を聞いたりする活動を位置付ける。そして、人との関わりのよさや楽しさを味わい、単元終了後も友達やお相手さんともっとよりよい関わりをしていきたいという思いをもてるようにしていく。

[手立て2]

- ・ 児童が登下校の途中や学校や家の周りで見付けた「秋」を国語科との関連を図りながら朝の会や帰りの会でスピーチしたり、秋を感じさせる日常の何気ない会話を話題にしたりする。また、児童が教室に持ち込んだ「秋」を紹介したり掲示したりする。このように、日々の生活の中で出会う「秋」を日常の様々な場面で繰り返し取り上げることで、秋に対する関心を高め、生活科での秋見付けの活動へとつなぎ、単元の導入をする。
- ・ 見付けた秋のもので遊ぶ活動では、昨年の第1学年がつくったゲームで遊んだり、参考作品を見たり、気付きや思いを伝え合ったりすることで、「見付けた秋のもので楽しいゲームをつくって遊びたい」という思いをもてるようにする。
- ・ お互いのゲームを見合せてアイデアをふくらませたり、アドバイスし合ったりする等の友達とかかわりが生まれるようにするために、似たゲームや同じゲームをつくっている児童の活動場所を近付ける等の場の工夫をする。
- ・ その後、自然発生的にできたゲームグループごとに、「〇〇遊びコーナー」等の看板を立てることで、友達と一緒にゲームをもっと楽しくしたいという思いを高めていくようにする。
- ・ また、教室や生活科室等に、児童がつくった遊びを紹介する掲示をしたり、見付けた秋のものや身近なものをいつでも使えるようなコーナーを設けたりして、休み時間等、生活科以外の時間でも「秋のゲームをつくって遊びたい」という思いが連続していくようにする。この活動を通して、友達と相談し合いながらお相手さんが楽しく遊べるように工夫した自分や友達のよさや頑張り、自分の成長に気付くことができるようにする。

[手立て3]

- ・ 毎時間の評価については、予め設定している評価規準をさらに具体的な児童の姿として表した評価の観点をもとに評価する。ここでは、学年で付けた力を明確にした評価規準と照らし合わせ、単元全体を通して身に付いた力を評価する。評価には、これまでに書いたカード、友達とアイデアを出し合いながら改良されていくゲームづくりの様子等を撮った写真、出来上がったゲーム等で評価をする。
- ・ 単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等で楽しかったことや頑張ったこと等を想起し表現する中で、友達や教師に賞賛してもらおう場を設定し、単元全体を通して身に付いた力や自分の成長に気付くようにする。そして、人とのかかわりのよさや楽しさを味わい、単元終了後も友達やお相手さんともっとよりよいかかわりをしていきたいという思いがもてるようにする。

(2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

校庭や通学路、公園等で秋見付けをした後、勝山北団地や勝田公園で遊んだ。勝田公園では、保育園のお相手さんと一緒に秋を見付けたり、遊んだりして、お相手さんとかかわりながら遊ぶことのよさや楽しさ、季節の変化に気付くことができた。(資料①) その後、見つけた秋のものを使って試し遊びをした後、ゲームをつくり遊んだ。この活動では、自分の思いを伝え合ったり相談し合ったりしながらつくって遊んだり、みんなでアイデアを出し合って工夫して遊ぶと楽しいことに気付くことができた。その後、「遊んで楽しかったから、今度はお相手さんと一緒に遊びたい」という思いから、図画工作科で身に付けた力も生かしながら、ゲームをつくりかえた。(資料②) お相手さんと楽しく遊べるルールを工夫をしたり、一緒に遊びお相手さんからの感想を聞いたりした。人との関わりのよさや楽しさを味わい、単元終了後も友達やお相手さんともっとよりよい関わりをしていきたいという思いをもつことができた。これまでの学習を振り返り、楽しかったことや頑張ったこと等を四つ切画用紙に工夫して表現した。(資料③) 最後に、これを紹介し合い単元のまとめとした。

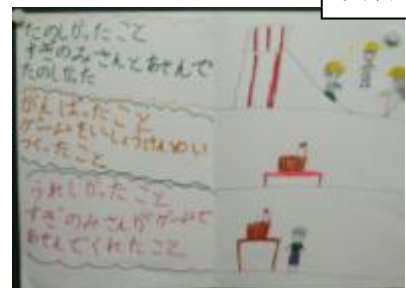
資料③



資料①



資料②



〔手立て2〕

児童が登下校の途中や学校や家の周りで見つけた「秋」を国語科との関連を図りながら朝の会や帰りの会でスピーチしたり、秋を感じさせる日常の何気ない会話を話題にしたりした。(資料④) また、児童が教室に持ち込んだ「秋」を紹介したり掲示したりした。このように、日々の生活の中で出会う「秋」を日常の様々な場面で繰り返し取り上げることで、秋に対する関心を高め、生活科での秋見付けの活動へとつなぎ、単元の導入をした。

勝田公園で秋見付けをしたり、遊んだりするときには、友達やお相手さんと「葉っぱのうさぎだよ。」「押してあげるね。」「こわくない。」等言葉のやりとりがあり、より楽しく活動しようとしていた。(資料⑤)

勝田公園で遊んだ後、楽しかった活動を振り返り、話したり絵に描いたりした。

資料④



資料⑤



お互いのゲームを見合ってアイデアをふくらませたり、アドバイスし合ったりする等の友達とのかかわりが生まれるようにするために、似たゲームや同じゲームをつくっている児童の活動場所を近付ける等の場の工夫をした。その後、自然発生的にできたゲームグループごとに、「〇〇遊びコーナー」等の看板を立てることで、友達と一緒にゲームをもっと楽しくしたいという思いを高めていくようにした。(資料⑥⑦)



また、教室や生活科室等に、児童がつくった遊びを紹介する掲示をしたり、見つけた秋のものや身近なものをいつでも使えるようなコーナーを設けたりして、休み時間等、生活科以外の時間でも「秋のゲームをつくって遊びたい」という思いが連続していくようにした。この活動を通して、友達と相談し合いながらお相手さんが楽しく遊べるように工夫した自分や友達のよさや頑張り、自分の成長に気付くことができた。(資料⑧⑨)

〔手立て3〕

毎時間の評価については、予め設定している評価規準をさらに具体的な児童の姿として表した評価の観点をもとに評価した。学年で付きたい力を明確にした評価規準と照らし合わせ、単元全体を通して身に付いた力をこれまでに書いたカード、友達とアイデアを出し合いながら改良されていくゲームづくりの様子等を撮った写真、出来上がったゲーム等で評価をした。(資料⑩⑪⑫⑬⑭⑮)

資料⑧



資料⑨

単元のまとめの段階では、個人ファイルや作品等で楽しかったことや頑張ったこと等を想起し表現する中で、友達や教師に賞賛してもらう場を設定し、単元全体を通して身に付いた力や自分の成長に気付くようにする。そして、人とのかかわりのよさや楽しさを味わい、単元終了後も友達やお相手さんともっとよりよいかかわりをしていきたいという思いがもてるようにしてきた。



資料⑩



資料⑪



資料⑫



資料⑬



資料⑭



資料⑮

(3) 成果と課題

〔成果〕

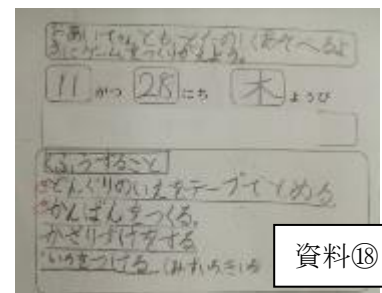
- 杉の実保育園のお相手さんとの年間計画に基づいた交流が有効であった。
お相手さんと1学期からの交流を通して馴染んできているので、相手意識が明確になり、活動にスムーズに入れた。お相手さんのためにゲームを持ちやすくつくりかえよう、お相手さんが木のブランコにのるのを手伝ってあげよう、お相手さんとどんぐりをいっぱい拾いたいな、どんぐりロケットはお相手さんには難しいから近くから投げるようにしよう等活动が活発になり進んでかわり、楽しく遊ぶことができた。(資料⑯) (アンケート：お相手さんと遊ぶことは、とても楽しい84%・楽しい16%)
- 単元を通して、いろいろなかたちで思いを伝えることができた。
教育活動全体を通して、聞いたり話したりする機会を捉え、自分の思いを伝える学習をしてきた。その結果、伝える場所や相手の人数、活動の内容等に応じて、伝え方を工夫することができた。
朝の会のスピーチで気付いたことを話す、公園で話をしながら遊びを工夫する、アドバイスし合い試行錯誤しながらゲームをつくる、活動を振り返り絵や文にまとめ発表する、お相手さんに招待状をかく等、様々な場や方法で表現し伝えることができた。(資料⑰) (アンケート：他の勉強が生活科の勉強に役にたったか。とても役に立つ37%・役に立つ53%・あまり役に立たない10%)
- 人との関わりをもつことで、自分や友達の頑張りやよさ、成長に気付くことができた。
お相手さんが喜んでくれたり、ありがとうと言ってくれたことで、一緒に活動するよさや楽しさに気付くことができた。人とかわることで学びを深めることができた。友達と繰り返し会話をしながら活動し思ったことや気付いたことを素直に表現し自分や友達のよさや頑張り自分の成長に気付いたり、実感したりすることができた。(アンケート：友だちのよいところや頑張っているところに、たくさん気付いた74%・少し気付いた16%) (アンケート：4月と比べてたくさんことができるようになった。たくさんできるようになった85%・できるようになった10%・すこしできるようになった5%)
- 毎時間の評価を次時の指導に生かすことができた。
評価の観点に具体的な児童の姿を入れ、毎時間の評価をした。前時にかいたカードや写真、作品、発言等をもとに評価し、次時の活動の確認をしたり、助言をしたりしてきた。特に、本時では、カードに印をつけ児童とともに活動の確認をしたことがスムーズな活動につながり、子どもが安心して意欲的に学ぶことができた。(資料⑱) (アンケート：生活科の勉強は、とても楽しい74%・楽しい26%)



資料⑯



資料⑰



資料⑱

〔課題〕


- 季節の変化に合った取り組みが必要である。今年の秋は、遅く来て短かったので、短期間に集中して取り組む必要があったが、諸事情で11週にわたる学習になり児童の意識をつなぐことが難しかった。
- より柔軟な交流計画を立てる必要がある。杉の実保育園とは年間計画を立てて交流をしているが、天候や季節による変更ができにくかった。ゆとりをもった交流計画を立てる必要がある。また、保育園と小学校のねらいを両方の職員が理解し合ったり、交流の振り返りをしたりする機会を設ける必要があった。

[児童の振り返りカードから]

ゲームをつくらう

11 → 25 → 10 (け) → 200

「かざらすす」




わたしはめいろを入りました。
めいろのせんはむまをついに
たすけが大きいのでは
ぼろ大さくつりまわしぐり
おれをひいて、いかにいもをひき
いすまわし、かたのひき
いすまわし、かたのひき

ゲームをあやぼう

11 → 26 → 10 (か) → 200

「かざらすす」



めいろはせんをかきて
これよりまわすとき
これよりまわすとき
これよりまわすとき
これよりまわすとき
これよりまわすとき
これよりまわすとき
これよりまわすとき

ゲームをつくらう

11 → 28 → 10 (木) → 200

「かざらすす」

めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて

わたしはめいろを入りました
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて

ゲームをつくらう

12 → 10 → 10 (火) → 200

「かざらすす」



めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて

わたしはめいろを入りました
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて
めいろをついて